

家族の「脳卒中」早く気付いて

小中高生に出前講座

徳島大学病院脳卒中センター（徳島市）は、若

い世代に脳卒中への理解を深めてもらおうと、小

中高校の児童生徒を対象にした出前講座を始めた。自身の予防だけでなく、家族が発症した場合に前兆を見逃さず早期に気付くことで、適切な治療につなげるのが狙い。

脳卒中は重い後遺症が残るケースが少なくなく、担当者は「回復するかは時間との勝負。早く気付いてもらえるようになれば」と話している。

脳卒中は脳の血管が詰まるなどして発症する。血管を再開通させるために投薬や手術を行うが、治療が遅れるほど脳の神経がダメージを受け、一命を取り留めてもまひや言語障害が残つたり、寝たきりになつて介護が必要になつたりなどが挙げられ、自

要になつたりする人がいる。

センターによると、統

計では発症から4時間以内に治療した場合、患者の7割は自立歩行ができるまでに回復するが、6時間以内だと5割に減る

という。

脳卒中の前兆や初期症状には▽顔や体の片側だけがまひする▽うれつが

術の様子を撮影した動画も紹介する。

出前講座ではセンター

の医師が脳卒中の症状や

発症時の対処法、救急搬

送の流れ、予防法を教え

る。手術で使う道具や手

術の様子を撮影した動画

も紹介する。

近年、学校現場では心

肺蘇生法の講習が定着し

ている。センターの山本

伸昭医師（44）は「脳卒中も緊急の処置が必要な疾患で、教育の一環として認識が高まるのを期待している。大切な家族の方が一に備え、子どもにも知識を身に付けてほしい」と話している。

出前講座は15分から1

時間程度で、相談に応じ

る。無料。問い合わせはメ

ール〈neuro@tokushima-u.ac.jp〉。（矢田諭史）

回らない▽言葉が出づらいなどが挙げられ、自覚しにくい場合もある。祖父母や両親ら身近にいる人の異変を見逃さない

学校現場での啓発活動を企画した。



徳島大病院

脳卒中についての出前講座に向か、準備を進める医師＝徳島大学病院